

1 1月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

11月は法事が多かった。改めて残された人生をどう生き抜くか考えさせられた。亡くなった父母が毎晩のように夢の中に出て来てくれて色々なドラマの配役を演じてくれた。

1・読書から

◆「フロイト先生に常に初対面してください」〈小此木啓吾『人類の知的遺産〈フロイト〉』講談社〉著者が恩師からいただいた本の中に書いてあった言葉。繰り返し読むことにおいて、常に初対面であるような姿勢で読むことによって新たな発見があるということか。

◆「最後に成功するものなら困難や貧乏や失敗がなんであろう」〈サマセット・モーム『人生の絆』河出書房・世界文学全集〉

実に長い小説だった。幼少時から父母を失くし、身体に障害を抱えながらも他人のために色々な心配りをする主人公の生き様は真似できない。何事も最後に勝つのが真の勝利者。

◆「アスリートには競技で勝つことが求められますが、勝って終わりではなく、勝ったからこそ得られる注目、影響力を使って、世の中に役立つ情報を発信していく“メディア”としての役割も担っています」〈『コーチングクリニック2015・8月』〉

バスケットボールの世界で勝った、負けただけでなく、オールマイティーな世界で影響力を与えられるようなプレイヤー、コーチ、人間でありたいものである。

2・新聞等のコラムから

◆「一日でも長く続けられるように体を鍛え、後進のみんなの目標になりながらやっていきたい」(プロゴルファー・青木功)

今年の文化勲章を受章した時のコメントである。今だにシニアの大会で活躍している氏の情熱には敬服する。高齢で活躍する各界の著名人は皆鍛練の毎日である。

◆「俺を動かしているのは、家族にどんな世の中を残せるか。大事な今はじゃなく、次世代のために何ができるかなんだ」(今治・夢スポーツ取締役・矢野将文)

愛媛今治で元サッカー日本代表監督の岡田氏と共に地域リーグサッカーチームの経営に燃える。私がやっているバスケットクリニックもこのような志を持って取り組みたい。

◆「時間と金は出会いに使い」〈ひらほく新聞〉

かつて我が子たちに「お金と時間は頭と腹に使い」と諭していたが、これからは我が子たちも大人になったのでこの言葉にチェンジしよう。最近飲み会の機会がすっかり減ってしまい、新しい出会いが少なくなってしまった私にはガツンと一発。

3・バスケットボール各種クリニックのレジメに挿入した言葉から

◆「自分に負けられないということは、自分に対してごまかしのない姿勢で歩み続けることだと考えている。そして、自分をごまかさないためには、敵を外でなく内、つまり己の中においておかなければならない」(桜井章一『負けられない技術』)

自分をごまかせない。自分を信じるようになることで“自信”ができる。

◆「Failure is part of success」〈コーチ・K『LEADINGS WITH HEART』〉

成功は失敗からしか生まれない。失敗を恐れる子どもたちに最も伝えたいことである。